

平成3年度
平塚市美術館年報

ANNUAL REPORT

The Hiratsuka Museum of Art 1991

目 次

沿 革·····	1
企 画 展·····	2
常 設 展 示·····	9
教 育 普 及·····	15
保 存 ・ 修 復·····	26
収 蔵 作 品·····	27
統 計·····	29
組 織 ・ 運 営·····	31
美術館協議会·····	31
組 織·····	32
職 員 名 簿·····	32

沿 革

- 1984年（昭和59） 5月 美術館建設研究委員会発足（市内）
- 1985年（昭和60） 7月 平塚市美術館基本構想策定委員会設置
（1986年3月まで8回開催）
- 1986年（昭和61） 3月 「平塚市美術館基本構想策定」答申
- 1986年（昭和61） 4月 平塚市美術館基本計画策定連絡協議会
設置（市内）
- 1986年（昭和61） 9月 「平塚市美術館建設基本計画」策定
- 1988年（昭和63） 2月 美術館基本設計契約
- 1988年（昭和63） 4月 美術館建設準備室設置
- 1988年（昭和63） 8月 美術館実施設計契約
- 1989年（昭和64） 6月 美術館建設起工
- 1990年（平成2） 10月 平塚市美術館竣工
- 1990年（平成2） 12月 平塚市美術館条例施行
- 1991年（平成3） 3月 平塚市美術館開館

企画展

スイス プチ・パレ美術館名品展

タルコフとエコール・ド・パリの画家たち

会 期 平成3年3月26日(火)～5月5日(日)

主 催 平塚市美術館・毎日新聞社

後 援 外務省・文化庁・スイス大使館

スイスのジュネーヴに所在するプチ・パレ美術館より借用した不世出のロシア人画家、ニコラス・タルコフの作品50点と印象派からエコール・ド・パリに至る作家の作品50点、計100点で本展は構成された。

モスクワの裕福な商家に生まれたタルコフは、20世紀初頭のパリで活躍、ドリュエやヴォラールら画商にも認められながらも晩年はパリ郊外に引き隠り画壇との交渉を絶ったまま静かに息をひきとった。

当時ある程度注目されながら忘れ去られた存在であるこうした画家にスポットを当て、今日その仕事を改めて問い直すことがこの展覧会開催の意義であった。

さらにタルコフとはほぼ同時期、パリを中心に活動したルノワール、デュフィ、ユトリロ、キスリング、ローランサンらの作品があわせて展示された。これらは、西洋の近代美術の展開を概観する役割を担うと同時に開館展としての華やかな雰囲気盛り上げた。



展覧会図録 大きさ27.5×22.5cm 頁数158頁

匠 秀夫 「プチ・パレという美術館」

原田 実 「タルコフとその時代概観」

関連事業 講演会 講師 匠秀夫（茨城県近代美術館長）
演題 「スイス プチ・パレ美術館と近代絵画コレクション」

日時 平成3年4月3日(土)午後2時

会場 講堂

ビデオ放映 「タルコフとその時代 ―プチ・パレ美術館所蔵作品より―」

「プチ・パレ美術館 20世紀のあけぼの」

湘南の萬鐵五郎

会 期 平成3年5月18日(土)～平成3年6月16日(日)

主 催 平塚市美術館

後 援 神奈川新聞社

大正期を代表する洋画家、萬鐵五郎の展覧会を開催した。萬鐵五郎が画家として活躍した期間は、明治45年から昭和2年までで、そっくり大正時代と重なっている。さらにその期間をおおきくフォーヴィスムの時代、キュビズムの時代、南画の時代に分けることができるが、本展は、南画の時代に当たる茅ヶ崎時代の作品を中心に構成した。大正8年に現在の茅ヶ崎市南湖に病氣療養のため転地してきた萬は、10年頃から南画の研究に打ち込み、その成果を油彩画や水彩画、墨画に生かし、独自の世界を創りあげた。本展は、昭和2年の5月に41歳で死去するまでの8年余に、茅ヶ崎において制作された作品のうち、油彩29点、水彩35点、墨画37点、デッサン15点、版画4点をはじめ、スケッチブック、書簡、遺品等により、萬鐵五郎の画業を回顧したものである。

展覧会図録 大きさ24.0×25.0cm 頁数111頁
陰里鐵郎 「萬鐵五郎について」
原田 実 「湘南－萬鐵五郎のいる風景」



関連事業 講演会 講師 陰里鐵郎 (三重県立美術館長)
演題 「茅ヶ崎時代の萬鐵五郎」
日時 平成3年6月1日(土) 午後2時
会場 講堂
ビデオ放映 「萬鐵五郎の芸術」 講堂

'91イタリア ボローニャ国際絵本原画展

[特別展示] グラフィック賞・エルバ賞受賞絵本原画展

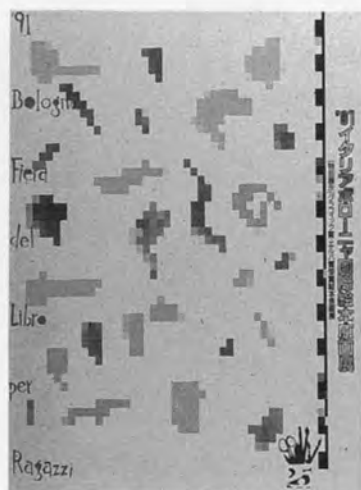
会 期 平成3年8月1日(木)～平成3年8月18日(日)

主 催 平塚市美術館

後 援 イタリア大使館・日本国際児童図書評議会

イタリアのボローニャ市では毎年4月に国際児童図書展が開催され、その事業の一つとして絵本原画のコンクールが行われている。本展は①そのコンクールに入選した73作家の原画作品、②開催25周年記念で設置された、グリーティングカードに対するUNISEF賞受賞作品、および③自主企画として同児童図書展でグラフィック賞、エルバ賞を受賞した歴代の絵本について、その絵本原画作品、と以上3つのジャンルによって構成された。

本年のコンクールでは過去最高の39ヵ国からの応募があり、巡回された400点近くの作品は、いずれも鮮やかな色彩と繊細な線が原画ならではの美しさを伝えていた。



展覧会図録 大きさ21.0×29.7cm 頁数255頁

関連事業 ビデオ放映「ボローニャ市案内」

画業50年 工藤甲人展

— 夢幻の彼方から —

会 期 平成3年9月14日(土)～平成3年10月20日(日)

主 催 平塚市美術館・日本経済新聞社

創画会の中心メンバーのひとりであり、平塚に在住する画家工藤甲人の初期から最新作73点を集め展示した。戦前から戦後への日本画の流れのなかで、上村松篁や山本丘人を擁し、最も革新的な運動を担ってきたのは創造美術であり、創画会であった。これらの会に参加し、幻想性豊かな画風によって独自の世界を築いてきた工藤甲人は戦後の日本画壇のなかでも個性的な制作活動が続ける作家のひとりといえるだろう。故郷弘前の自然に啓示を受け、植物や昆虫などを題材にくりひろげられる濃彩な作品世界は、風土性を内包しつつ、新たな日本画の表現を目指したものであり、平塚市美術館所蔵の「蝶の階段」などの代表作として結実している。本展はこうした工藤甲人の画業の歩みの全貌を伝えるものであり、平塚市美術館の企画展として独自に企画され、東京、奈良を巡回した。なお、平成4年1月工藤甲人は「毎日賞」(毎日新聞社主催)を受賞したが、本展の開催が受賞の主な理由となった。



展覧会図録 大きさ27.0×22.3cm 頁数112頁

工藤甲人 「川端学校時代」

原田 実 「工藤甲人の画業」

小松崎拓男 「50年の歩み—工藤甲人の世界」

西村 勇 「工藤君の絵画に就いて」

関連事業

講演会 講師 田中日佐夫(成城大学教授)

演題 「工藤甲人芸術の世界」

日時 平成3年9月21日(土)午後2時

会場 講堂

写真体験60年 濱谷浩展

会 期 平成3年11月2日(土)～平成3年12月8日(日)

主 催 平塚市美術館

後 援 PPS通信社

写真一筋に生きてきた写真家濱谷浩は、1991年写真体験60年を迎えた。1930年初めてカメラを手にして以来、「昭和」という時代を生きた人々と、それを取り巻く風土とを鋭い視点でとらえてきた。さらに地球のさまざまな原自然の様相を、強靱な精神と勇気と厳しいカメラワークによってとらえてきた。

本展は、濱谷浩の写真体験60年を記念して、今日まで記録されてきた作品から、初期の代表作「雪国」25点、「裏日本」25点をはじめ、日本の代表的な文化人の肖像写真「學藝諸家」40点、「生の貌」40点、「地の貌」20点、昭和の時代を生きてきた人々の姿の記録「昭和女人集」165点、「昭和男性諸君」165点、そして氏と氏を取り囲む人々がとらえた氏のポートレート「私」165点を一堂に集めて展観した。

展覧会図録 大きさ24.1×26.2cm 頁数96頁
白井久夫 「日本国濱谷村周遊記」

関連事業 講演会 講師 濱谷 浩 (写真家)
演題 「私の写真について」
詩の朗読 堀口すみれ子 (詩人)
日時 平成3年11月10日(日)午後2時
会場 講堂
ビデオ上映 「こころの旅 濱谷浩越後紀行」 講堂



ブカレスト国立美術館所蔵絵画展

ルーマニア革命の炎をくぐり抜けた名画

会 期 平成4年1月5日(日)～平成4年2月16日(日)

主 催 平塚市美術館・ルーマニア国立美術館・日本ルーマニア友好協会・毎日新聞社

後 援 外務省・文化庁・ルーマニア文化庁・在日ルーマニア大使館

ブカレスト国立美術館は、1946年旧ルーマニア王家のコレクションをもとに設立された。絵画、彫刻、工芸など各分野に及ぶ収蔵作品数は10万余点、古今東西の名品を収蔵するルーマニア最大の美術館である。そのなかからこの展覧会のために、16世紀から20世紀に至るヨーロッパの絵画50点と、いままで日本では紹介される機会に恵まれなかったルーマニアの近・現代絵画12点を展示した。

これらの作品は、国ごとに括られて展示された。16世紀から18世紀のイタリア絵画、16・17世紀スペイン絵画、17・18世紀のフランドル絵画、さらにオランダ、ドイツ、ロシア絵画と、19・20世紀のフランス近代絵画。そしてフランスの近代美術とくにバルビゾン派の影響を強くうけながら独自のスタイルを模索してきた、ルーマニアの近代絵画がこれに加わった。

また、1989年、12月のルーマニア革命で損傷した作品も1点特別展示された。キャンバスにできた銃弾の貫通痕や飛び散った壁の破片を浴びて出来た画面表面のおびただしい傷跡は、ルーマニアの厳しい状況を生々しく来館者に伝えるものだった。

展覧会図録 大きさ28.0×22.5cm 頁数150頁

テオドル・エネスク「ブカレスト国立美術館とそのコレクション」

黒江光彦「ヨーロッパ絵画の流れ」

テオドル・エネスク「ルーマニア絵画」

関連事業

講演会 講師 黒江光彦(美術史家・絵画修復家)

演題 「西洋美術の造形性―量感と空間」

日時 平成4年1月12日(日)午後1時30分

会場 講堂

ビデオ放映 「救出された名画―ブカレスト国立美術館所蔵作品」



第14回 平塚市展

会 期 平成3年7月6日(土)～平成3年7月21日(日)

主 催 平塚市教育委員会

主 管 平塚書道協会、平塚美術協会、湘南工芸家協会、平塚写真連盟

後 援 平塚市、平塚市教育委員会、平塚市美術館、平塚文化連盟、
平塚商工会議所

会 場 平塚市美術館展示室 I

平塚市展は、絵画・工芸・写真・書道の部門を設け、公募した作品を実行委員会が審査をし展示を行うもので、企画展示室を会場に、市民の創作発表の場を提供し、いっそう芸術文化に関心を高める機会を提供した。

常設展示

平塚市が湘南の中央に位置するところから、美術館のテーマを「湘南の美術・光」とし、相模湾沿岸地域にゆかりある作家の作品を収集し常設展示をおこなっている。

湘南にゆかりのあるとは、この地域が作家の生い立ちや制作の動機になんらかの関係をもつものであることをいう。開館に至るまで、美術館建設準備室では、この地にゆかりある近代から現代までの美術活動を展望しうる優れた作家の作品の収集に努めてきた。特に平塚市で生まれた洋画家鳥海青児の作品は、油彩、素描合わせて120点余りの作品を所蔵しており、収蔵品の柱になっている。他にも岸田劉生、椿貞夫、萬鐵五郎、原精一、二見利節、中村琢二、日本画では安田靫彦、山本丘人、工藤甲人、近藤弘明等の作品が常設展示で鑑賞できる。作品の保存、常設展に新鮮な印象をもたらすために平成3年度は3回の展示替えを行った。

第1回常設展示出品目録

会期 平成3年3月26日～5月5日

NO	作者名	作品名	制作年	材質・技法
1	横山 大観	不盡之高嶺	1915	絹本・着色
2	下村 観山	竹林之図	不詳	紙本・水墨
3	今村 紫紅	水汲む女	1914	紙本・着色
		牛飼う男	1914	紙本・着色
4	安田 靫彦	宇治合戦図	1905	絹本・着色
5	安田 靫彦	日食	1925	紙本・着色
6	前田 青邨	桃花	1961	紙本・着色
7	山本 丘人	岩壁	1958	紙本・着色
8	工藤 甲人	蝶の階段	1967	紙本・着色
9	工藤 甲人	わが壁に	1985	紙本・着色
10	工藤 甲人	残像図	1986	紙本・着色
11	近藤 弘明	幻光一御感の藤	1987	六曲一隻紙本着色
12	鳥海 青児	グーベル・ヌ・マン広場	1963	油彩・キャンバス
13	鳥海 青児	アルジェ風景	1932	油彩・キャンバス
14	鳥海 青児	石橋のある風景	1937	油彩・キャンバス
15	鳥海 青児	道化	1939	油彩・キャンバス
16	鳥海 青児	沖繩風景	1940	油彩・キャンバス
17	鳥海 青児	天津のフランス寺院	1942	油彩・キャンバス
18	鳥海 青児	男像	1942	油彩・キャンバス
19	鳥海 青児	川沿の家	1954	油彩・キャンバス
20	鳥海 青児	黄色い人	1956	油彩・キャンバス
21	鳥海 青児	ピカドール	1958	油彩・キャンバス

NO	作 者 名	作 品 名	制作年	材 質・技 法
22	鳥海 青児	ピカドール	1958	パステル・紙
23	鳥海 青児	ピカドール	1958	パステル・紙
24	鳥海 青児	自画像	1959	鉛筆・紙
25	森田 勝	鳥海青児像	1928	鉛筆・紙
26	森田 勝	自画像	1926	鉛筆・紙
27	鳥海 青児	大理石をはこぶ男	1958	油彩・キャンバス
28	鳥海 青児	ブラインドをおろす	1959	油彩・キャンバス
29	鳥海 青児	壁の修理	1959	油彩・キャンバス
30	鳥海 青児	スペイン風景	1959	油彩・キャンバス
31	鳥海 青児	石だたみ	1962	油彩・キャンバス
32	鳥海 青児	メキシコの西瓜	1961	油彩・キャンバス
33	鳥海 青児	果汁を吸うマヤ人	1964	油彩・キャンバス
34	鳥海 青児	木心の出た法隆寺塑像	1967	油彩・キャンバス
35	黒田 清輝	波打ち際の岩	1896	油彩・板
36	黒田 清輝	由比ヶ浜	1897	油彩・板
37	岸田 劉生	自画像	1917	コンテ・紙
38	岸田 劉生	Aの肖像	1913	油彩・キャンバス
39	岸田 劉生	石垣ある道	1921	油彩・キャンバス
40	椿 貞夫	菊子坐像	1922	油彩・キャンバス
41	椿 貞夫	鵠沼風景	1921	油彩・キャンバス
42	萬 鐵五郎	砂丘風景	1924	油彩・キャンバス
43	萬 鐵五郎	羅布かづく人	1924	紙・インク
44	原 精一	煙草のむ男	1936	油彩・キャンバス
45	原 精一	たまごのある静物	1956	油彩・キャンバス
46	原 精一	I 先生肖像	1962	油彩・キャンバス
47	里見 勝蔵	イビサの田野	1961	油彩・キャンバス
48	井上 三綱	駆けだした牛	1956	油彩・キャンバス
49	山本 鼎	国府津海浜より箱根連峰を望む	1936	油彩・キャンバス
50	小糸源太郎	早春	1942	油彩・キャンバス
51	中村 琢二	うたい	1965	油彩・キャンバス
52	野口弥太郎	裸婦	1951	油彩・キャンバス
53	山下大五郎	早春	1941	油彩・キャンバス
54	真垣 武勝	セーヌ川のノートルダム	1957	油彩・キャンバス
55	二見 利節	マドモアゼル美保	1973	油彩・キャンバス
56	中川 一政	薔薇	不詳	油彩・キャンバス
57	三岸 節子	インカの壺	1976	油彩・キャンバス
58	本荘 赳	崖壁	1970	油彩・キャンバス
59	国領 経郎	海景	1968	油彩・キャンバス

第2回常設展示出品目録

会期 平成3年5月5日～7月7日

NO	作者名	作品名	制作年	材質・技法
1	今村 紫紅	瀧	1915	紙本・墨
2	安田 靱彦	赤星母堂像大下図①	1943	紙本・墨
3	安田 靱彦	赤星母堂像大下図②	1943	紙本・墨
4	安田 靱彦	赤星母堂像大下図③	1943	紙本・墨
5	安田 靱彦	赤星母堂像	1943	紙本・着色
6	安田 靱彦	楠公	1940頃	絹本・着色
7	前田 青邨	桃花	1961	紙本・着色
8	山本 丘人	岩壁	1958	紙本・着色
9	山本 丘人	入江	1954	紙本・着色
10	工藤 甲人	杉	1983	紙本・着色
11	工藤 甲人	相	1984	紙本・着色
12	田中 真洲	頼山陽蒙古来	1940	紙本・墨
13	田中 真洲	新年御題魚	1967	紙本・墨
14	田中 真洲	いろは	1962	六曲一隻紙本・墨
15	田中 真洲	酔古堂剣掃	1970	六曲一隻紙本・墨
16	鳥海 青児	芦屋風景	1926	油彩・キャンバス
17	鳥海 青児	シベリア駅路の雪	1930	油彩・キャンバス
18	鳥海 青児	オランダ水差しとレモン	1945-51	油彩・キャンバス
19	鳥海 青児	自画像	1959	紙・鉛筆
20	鳥海 青児	ストレリチア	1930-40	油彩・板
21	鳥海 青児	水田	1936	油彩・キャンバス
22	鳥海 青児	蘇州風景	1939	油彩・キャンバス
23	鳥海 青児	サンマルコの広場	1930	油彩・キャンバス
24	鳥海 青児	オランダ風景	1932	油彩・キャンバス
25	鳥海 青児	壁の修理	1959	油彩・キャンバス
26	鳥海 青児	林泉	1947	油彩・キャンバス
27	鳥海 青児	段々畠	1952	油彩・キャンバス
28	鳥海 青児	アカシア	1941	油彩・キャンバス
31	鳥海 青児	草花	1950-60	油彩・キャンバス
32	鳥海 青児	伊賀瓶子とメロン	1957	油彩・キャンバス
33	鳥海 青児	二重橋	1956	油彩・キャンバス
34	鳥海 青児	サーカスの馬	1954	油彩・キャンバス
35	鳥海 青児	メキシコ人の家族	1969	油彩・キャンバス
36	鳥海 青児	はにわ	1959	油彩・キャンバス
37	鳥海 青児	フラメンコ	1972	油彩・キャンバス
38	鳥海 青児	シベリヤ駅路の雪	1930	紙・鉛筆
39	鳥海 青児	シベリヤの駅	1930	紙・鉛筆

NO	作 者 名	作 品 名	制作年	材 質・技 法
40	森田 勝	鳥海青兎像	1927	紙・鉛筆
41	森田 勝	原精一像	1927	紙・鉛筆
42	森田 勝	椅子にかけける女	1928	紙・鉛筆
43	森田 勝	北海道風景	1928	紙・鉛筆
44	森田 勝	女の顔	1933	油彩・キャンバス
45	黒田 清輝	波打ち際の岩	1896	油彩・板
46	黒田 清輝	由比ヶ浜	1897	油彩・板
47	岸田 劉生	自画像	1917	紙・コンテ
48	岸田 劉生	F氏像	1914	油彩・キャンバス
49	岸田 劉生	石垣ある道	1921	油彩・キャンバス
50	椿 貞夫	朝子像	1927	油彩・キャンバス
51	椿 貞夫	鵠沼風景	1921	油彩・キャンバス
52	椿 貞夫	菊子坐像	1922	油彩・キャンバス
53	原 精一	桐生風景	1927	油彩・キャンバス
54	原 精一	女の顔（陳少姐）	1942	油彩・キャンバス
55	原 精一	バレリーナF嬢	1956	油彩・キャンバス
56	原 精一	座裸婦	1955頃	油彩・キャンバス
57	原 精一	二人の浴女	1949	油彩・キャンバス
58	原 精一	椅子にかけける裸婦	1960	油彩・キャンバス
59	原 精一	I先生肖像	1962	油彩・キャンバス
60	中村 琢二	南伊豆	1984	油彩・キャンバス
61	里見 勝蔵	イビサの田野	1961	油彩・キャンバス
62	二見 利節	集い	1940	油彩・キャンバス
63	二見 利節	三人の女	1939	油彩・キャンバス
64	二見 利節	玄武蘇上	1973頃	油彩・キャンバス
65	中川 一政	薔薇	不詳	油彩・キャンバス
66	三岸 節子	インカの壺	1969	油彩・キャンバス
67	本荘 昶	大徳寺方丈の土間	1968	油彩・キャンバス
68	国領 経郎	寂夏	1983	油彩・キャンバス

第3回常設展示出品目録 会期 平成3年7月13日～平成4年5月24日

1	黒田 清輝	波打ち際の岩	1896	油彩・板
2	黒田 清輝	由比ヶ浜	1897	油彩・板
3	岸田 劉生	自画像	1917	コンテ・紙
4	岸田 劉生	Aの肖像	1913	油彩・キャンバス
5	岸田 劉生	F氏像	1914	油彩・キャンバス
6	岸田 劉生	石垣ある道	1921	油彩・キャンバス
7	椿 貞夫	鵠沼風景	1921	油彩・キャンバス
8	椿 貞夫	菊子坐像	1922	油彩・キャンバス

NO	作 者 名	作 品 名	制作年	材 質・技 法
9	椿 貞夫	朝子像	1927	油彩・キャンバス
10	萬 鐵五郎	椿	1926	油彩・キャンバス
11	萬 鐵五郎	砂丘風景	1924	油彩・キャンバス
12	萬 鐵五郎	湘南風景	1926	油彩・キャンバス
13	萬 鐵五郎	羅布かづく人	1924	木版・紙
14	森田 勝	女の顔	1933頃	油彩・キャンバス
15	森田 勝	街	1933頃	油彩・ボード
16	原 精一	黒衣少女	1955	油彩・キャンバス
17	原 精一	女の顔（陳少姐）	1942	油彩・キャンバス
18	原 精一	桐生風景	1927	油彩・キャンバス
19	鳥海 青児	静物	1926	油彩・板
20	鳥海 青児	裸婦	1928	油彩・キャンバス
21	鳥海 青児	シベリア駅路の雪	1930	油彩・キャンバス
22	鳥海 青児	グーベル・ヌ・マン広場	1932	油彩・キャンバス
23	鳥海 青児	梳る女	1955	油彩・キャンバス
24	鳥海 青児	芦屋風景	1926	油彩・キャンバス
25	鳥海 青児	蘇州風景	1939	油彩・キャンバス
26	鳥海 青児	水田	1936	油彩・キャンバス
27	鳥海 青児	ストレリチア	1930	油彩・板
28	鳥海 青児	道化	1939	油彩・キャンバス
29	鳥海 青児	オランダ水差とレモン	1949-51	油彩・キャンバス
30	鳥海 青児	林泉	1947	油彩・キャンバス
31	鳥海 青児	狸穴の森	1954	油彩・キャンバス
32	鳥海 青児	アカシア	1941	油彩・キャンバス
33	鳥海 青児	伊賀瓶子とメロン	1957	油彩・キャンバス
34	鳥海 青児	段々畑	1952	油彩・キャンバス
35	鳥海 青児	サーカスの馬	1954	油彩・キャンバス
36	鳥海 青児	サンマルコの広場	1930	油彩・キャンバス
37	鳥海 青児	二重橋	1956	油彩・キャンバス
38	鳥海 青児	草花	1950-60	油彩・キャンバス
39	鳥海 青児	ぼたん	1946	油彩・キャンバス
40	鳥海 青児	はにわ	1959	油彩・キャンバス
41	鳥海 青児	根来瓶子と果物	1971	油彩・キャンバス
42	鳥海 青児	フラメンコ	1972	油彩・キャンバス
43	木村 莊八	ギターを弾く男（鳥海青児）	1930	油彩・キャンバス
44	二見 利節	三人の女	1939	油彩・キャンバス
45	二見 利節	玄武蘇上	1972	油彩・キャンバス
46	井上 三綱	習作	1954頃	油彩・ボード
47	井上 三綱	牛小屋	1954	油彩・キャンバス
48	真垣 武勝	ベニスサンマルコ広場	1958	油彩・キャンバス

NO	作 者 名	作 品 名	制作年	材 質・技 法
49	真垣 武勝	ウエストミンスター橋観光船発着所	1967	油彩・キャンバス
50	中村 琢二	南伊豆	1984	油彩・キャンバス
51	中村 琢二	奥大井	1983	油彩・キャンバス
52	山下大五郎	砂丘	1965	油彩・キャンバス
53	山下大五郎	平塚風景	1930	油彩・キャンバス
54	青山 義雄	バラアーチ	1990	油彩・キャンバス
55	養田 艶子	極楽華	1971	油彩・キャンバス
56	野口弥太郎	裸婦	1951	油彩・キャンバス
57	岩橋 英遠	戸隠	1976	紙本・着色
58	北沢 映月	女人記	1972	紙本・着色
59	常盤 大空	黒颯	1971	紙本・着色
60	関 主税	鳥	1971	紙本・着色
61	近藤 弘明	寂韶苑	1982	紙本・着色
62	工藤 甲人	杉	1983	紙本・着色
63	田中 真洲	無為	1970	紙本・墨
64	田中 真洲	酔古堂剣掃	1970	六曲一隻紙本・墨
65	田中 真洲	蘇東坡	1971	紙本・墨
66	田中 真洲	静和	1972	紙本・墨
67	田中 真洲	篆隸楷行草かな	1965	六曲一隻紙本・墨
68	本荘 昶	崖壁	1970	油彩・キャンバス
69	本荘 昶	坂道	1982	油彩・キャンバス
70	本荘 昶	津久井湖	1980	油彩・キャンバス
71	本荘 昶	朝	1986	油彩・キャンバス
72	本荘 昶	那須の荒山	1985	油彩・キャンバス
73	本荘 昶	廃屋（一）	1987	油彩・キャンバス
74	本荘 昶	丹沢山塊	1990	油彩・キャンバス
75	本荘 昶	山麓の街	1981	油彩・キャンバス
76	本荘 昶	建てる	1982	油彩・キャンバス
77	本荘 昶	大徳寺方丈の土間	1968	油彩・キャンバス
78	本荘 昶	脳病院のある丘	1969	油彩・キャンバス
79	本荘 昶	葛葉台	1977	油彩・キャンバス
80	本荘 昶	蓮池早暁	1988	油彩・キャンバス

教育普及

アクションペイント「きみも、ジャクソン・ポロック」

講 師 柿沼 茂雄

アシスタント 金子 忍（平塚市立大野小学校教諭）

定員・対象 20名 小学生および中学生

開催日時 平成3年7月25日(木)・26日(金)午後1時30分～午後3時30分

作品展示 平成3年7月27日(土)～平成3年8月2日(金) アトリエA

今まで絵は四切りの画用紙と筆で描くものと考え、経験してきた子供達は多いが、学校の中ではその枠をはみ出せるカリキュラムを保証するスペースがない。しかし、子供たちの内面では感情が開放されることを、また、全身で表現することを願っている。そこで、今回はアメリカの現代美術を代表する画家のジャクソン・ポロックの表現手法を経験させることを通して、抽象絵画の一端を理解させ、全身を使った表現の喜びを味わわせることを目的として企画された。



7/25 色をつける方法（ぶつける、とばすなど）を考え、自由に試み、色で遊ぶ。

7/26 ジャクソン・ポロックのビデオを視聴。ドリッピングの技法による制作。



イメージ「思いもかけない形と色」

講 師	泉谷 淑夫（横浜国立大学付属横浜中学校教諭）
アシスタント	石射亜希子
定員・対象	20名 小学生および中学生
開催日時	平成3年7月31日（木）・8月1日（金）・2日（土）・3日（日） 午後1時～午後3時30分（4日間）
作品展示	8月6日（火）～13日（火）

- ① モダンアートのテクニックのなかでもオートマチックな技法——ストリングデザイン、デカルコマニー、マープリングなど自然的偶然的にあらわれる表現の美しさを体験させる。その試作した作品のオートマチックな形や色をイメージの核にして、話を創作し、コラージュで一枚の話の絵として作品に仕上げる。
- ② 一般にオートマチックに生まれる形からは、それがどのように現われるかということによって、期待と驚きと喜びが生じる。たとえば二ツ折紙に絵の具をつけた時、押し方、開き方にしがつて、偶然的にできるおもしろさは、開いてみるまで予想のつかない楽しみである。子供たちはこうしたことに熱狂し、またこれから自由に、おとぎの国の空想や幻想をいただくものである。功利的な知識教育に流されやすい今の子供たちに、このようなイメージの教育は大切であり、想像力を育てることが、絵本のもつひとつの意味でもある。



- 7/31 オートマチック技法で表現した児童生徒の作品を鑑賞する。ストリングデザインの体験。デカルコマニーの体験。
- 8/1 マープリング（油と水の性質をつかった年輪模様作り）
ドリップ（吹流しの体験）
- 8/2 オートマチックな技法の作品の形や色からイメージを広げて形を見つける。試作品の作品を使ってコラージュをする。形や色をイメージの核にして、話を創作する。コラージュにして一枚の原画を制作する。
- 8/3 前日の続き。個々の作品と話を紹介する。ポローニャ国際絵本原画展を全員で鑑賞。

土の造形 ―心の中のイメージを引き出す―

講 師	藤田 昭子（彫刻家）
アシスタント	松谷 健
定員・対象	20名 高校生以上
開催日時	平成3年10月3日(木)～11月7日(木) 毎週木曜日午後6時～午後8時（6回） 平成3年11月10日(日) 野焼き 午前8時30分～午後8時30分

「土」と慣れ親しむため、「たま」や「なわ」などの単純な形をつくることからはじめ、徐々に心に描いたイメージを形にしていくプロセスを体験した。最終日は受講生の制作した作品を焼くため、一日をかけ野焼きを実施した。また、社会人向けに講座の開講時間を午後6時からとし、20代から30代の社会人の参加を得た。



-
- 10/3 「たま」と「なわ」をつくる。ベニヤ板の上で構成してみる。
 - 10/10 粘土の板からできる形。たま・なわ・板を組み合わせで構成する。
 - 10/17 粘土に水を混ぜ、とけていく柔らかい土でつくる形。
 - 10/24 風景をつくる。心の中にある印象的な風景を表現してみる。居心地の良い空間・気になっている風景・大好きな場所・ずっと居てみたい場所など。
 - 10/31 「あかり・ランプ」というテーマで制作する。
 - 11/7 野焼きについての講義。また、ビデオ、スライドを用い、藤田講師制作作品について講義。
 - 11/10 野焼き（平塚市岡崎）
 - 11/12～12/15 作品返却
- 協 力：篠市川屋・相模解体興業㈱・山崎茂・海老沢栄子（順不同）

自然の素材から生まれる色 ー日本画岩絵具を造るー

講 師	上田 邦介（絵具屋三吉）
定員・対象	25名 高校生以上
開催日時	平成3年10月20日(日)・26日(土)・27日(日) 午後1時～午後4時30分（全3回）
テキスト	B5 4P
資 料	本朝画法大伝（土佐光起）より

岩絵具についての講義とアフリカ産孔雀石から実際に岩絵具(松葉緑青)をつくるワークショップ。原石を砕き、ふるい、水篩するという地道な手作業によって出来上がる岩絵具を体験的に理解する。石を砕いて絵具をつくるというプロセスが興味をひいたせいか、このワークショップは予想以上に絵を描いていない方の参加が多くみられた。

また、上田講師が収集した貴重な絵具原石のコレクションの一部もワークショップで公開した。製作の参考にと、当館で開催されていた日本画の企画展「工藤甲人展」を併せて見学した。

-
- 10/20 絵具原石と顔料について講義。染料や水干絵具についての講義と公開製作。「工藤甲人展」見学。
- 10/26 岩絵具製作。原石をハンマーで細かく砕き、更に乳鉢でこまかくすりつぶす。原石の粉を絵絹の100メッシュのふるいとステンレス製の300メッシュのふるいをとおす。
- 10/27 製作。ふるいを通した粉を水時計を使い水篩する。水篩をできるだけ何度も繰り返す。水篩が終わったら乾燥させ、出来上り。



現代彫刻の鑑賞と造形の基礎

講 師	保田 春彦 (彫刻家) 原 一史 (彫刻家)
アシスタント	大家泰仁
定員・対象	20名 高校生以上
開催日時	平成3年11月23日(土)・24日(日)・30日(土)・12月1日(日) 午後1時～午後4時 (全4回) 平成3年12月3日(火)～10日(日) 作品展示
テキスト	B5 9P

現代彫刻の講義から、制作へとつながってゆくワークショップ。

はじめに、保田・原両講師によって講義がおこなわれた。保田講師は、スライドを用いた講義の後、美術館前庭で、自作である「赤錆の幕舎」について講義をした。次に原講師が制作への導入として「包まれた生命体」というテーマでスライドをおよそ200枚上映した。

また、制作は「包まれた形態包む行為について 自分を包む最少の形態—段ボールを使って」というテーマで、制作者自身が作品の中に入れる事を条件とした。素材の段ボールは加工のしやすさと、身近であるという2点から使用する事にした。



-
- 11/23 講義。保田作品のスライドおよび世界の建築物のスライド上映と講義。美術館前庭にある「赤錆の幕舎」の周りで講義。アトリエで制作への導入、素材・用具についての簡単な説明。テーマ「包まれた形態包む行為について、自分を包む最少の形態—段ボールを使って」前提講義のスライドおよそ200枚を上映。
- 11/24 制作。素材は板段ボールとひも両面テープ。制作した作品に自分を入れる事を条件とした。
- 11/30 前回に引き続き制作する。作品完成者1名
- 12/1 PM14:00まで制作。前庭に出て全員で鑑賞会を行なう。制作した作品にひとりずつ入ってから保田・原講師より講評を受ける。
- 12/10～22 作品返却期間

LIFE ART ワークショップ

講 師	デビット・サーブ
定員・対象	50名 高校生以上
開催日時	平成3年12月8日(日) 午前9時30分～午後4時50分

描くこと、瞑想、体を使った表現（ダンス）を通して自分自身を表現し、美術や生活を新たな眼差しで見るようにするワークショップ。

午前 受付、名札をわたす。ワークショップへ導入。音楽に合わせて体を動かして表現する。第一のドローイング。かきたい絵を描く。体の動きで自分が描いた絵を表現する。ダンスと言葉の表現。私たちを創造性の根源から離れさせている問題点を見つめる。

午後 自分が気づいた事を広げるための瞑想と自分自身の表現。第二のドローイング。自分の心の中にあるブロックを突き破って表現する。体の動き、ダンス、言葉の表現を通して第三のドローイングをあらわす。いかにあなたの創造性と変化を助けていくか。終了



連続講演会 「日本の近代絵画と西洋」

西洋に留学した日本人画家たちが身につけた文化や技術を、日本はどのように受け入れたか。また、日本の画家たちは西洋美術の潮流をどのように理解し取り込んだか。日本の近代絵画と西洋という共通テーマで3回にわたり連続講演会を開催した。

第1回 平成4年3月14日(土)午後2時 講堂

黒田清輝と日本のアカデミズム

三輪英夫(東京国立文化財研究所美術部第2研究室長)

120人

第2回 平成4年3月21日(土)午後2時 講堂

近代日本画とヨーロッパ

岩崎吉一(東京国立近代美術館企画資料課長)

110人

第3回 平成4年3月28日(土)午後2時 講堂

渡欧しなかった画家たち—岸田劉生・萬鐵五郎を中心にして

原田実(平塚市美術館長)

115人



第1回講演会



第2回講演会

ビデオ制作

湘南にゆかりある美術家を選び、その生涯や作品を紹介する
オリジナル・ビデオを制作し、ビデオコーナーで放映した。

平成2年度 大磯の安田靫彦 (18分32秒)

萬鐵五郎の芸術 (17分46秒)

鳥海青児の世界 (19分06秒)

平成3年度 岸田劉生—内なる美を求めて (22分)

ミュージアム・コンサート

日 時 平成4年3月26日 午後7時～午後8時30分

会 場 テーマホール

主 催 平塚市 平塚市美術館

演奏者 岩崎由紀子 (ソプラノ)

東京コスモ弦楽四重奏団

曲 目 美しきロスマリン、夢のあとに他

企画展



スイス・プチ・パレ美術館名品展



湘南の萬鐵五郎展



ポーロニャ国際絵本原画展

企画展



工藤甲人展



濱谷浩展



ブカレスト国立美術館所蔵絵画展

常設展・市民アートギャラリー



市 民 展



常 設 展 示



市民アートギャラリー展示

保存・修復

所蔵作品の修復は、昭和59年度から毎年修復専門家に委託し、平成3年度までに、8年間合計42点を実施してきた。

日本画	2点
油彩画	37点
水彩画	3点
合 計	42点

平成3年度作品修復

No.	作者名	作品名	材質・技法	サイズ	制作年	経年
1	鳥海青児	黄色い人	油彩・キャンバス	60.8×72.9	1956年(昭和31)	36年
2	原 精一	三人の女	油彩・キャンバス	162.0×130.0	1951年(昭和26)	41年
3	朝井閑右衛門	魔園に於いて	油彩・キャンバス	60.7×73.0	1926年(昭和元)	66年
4	朝井閑右衛門	悪霊と道化	油彩・カルトン	67.7×79.8	1972年(昭和47)	20年
5	中村琢二	うたい	油彩・キャンバス	130.2×97.1	1965年(昭和40)	27年
						修復者 黒江光彦

平成3年度 収蔵作品

購 入

分類	作者名	作品名	制作年	材質・技法	サイズ(cm)
日本画	安田靉彦	孔子観河	1936以前	絹本・着色	45.9×57.3
	工藤甲人	樹木のうた	1956	紙本・着色	162.1×130.3
油彩画	青山義雄	バラアーチ	1990	油彩・キャンバス	64.8×81.0
	朝井閑右衛門	廃園に於いて	1926	油彩・キャンバス	60.7×73.0
	朝井閑右衛門	悪霊と道化	1972	油彩・キャンバス	66.5×78.7
	島海青児	北京天壇	1941	油彩・キャンバス	27.2×21.0
彫 刻	山本正道	風と少女	1990	ブロンズ	70.0



安田靉彦《孔子観河》1936年以前



工藤甲人《樹木のうた》1956年



青山義雄《バラアーチ》1990年



朝井閑右衛門《廃園に於いて》1926年



朝井閑右衛門《悪霊と道化》1972年



鳥海青児《北京天壇》1941年



山本正道《風と少女》1990年

統計

平成3年度 観覧者数

(人)

月	開館 日数 (日)	企 画 展					常 設 展					合 計
		一 般	高大生	小中生	未就学	計	一 般	高大生	小中生	未就学	計	
4	25	18,038	610	1,491	490	20,629	17,253	578	1,477	490	19,798	40,427
5	27	14,705	339	676	313	16,033	15,602	350	420	315	16,687	32,720
6	26	4,534	118	153	162	4,967	5,443	178	248	140	6,009	10,976
7	26	3,542	0	448	0	3,990	2,765	83	354	30	3,232	7,222
8	27	6,773	383	1,629	451	9,236	6,830	422	1,956	306	9,514	18,750
9	24	2,659	96	102	44	2,901	3,159	157	156	51	3,523	6,424
10	27	5,520	104	184	115	5,923	5,234	116	324	71	5,745	11,668
11	26	4,866	102	292	78	5,338	3,245	72	240	55	3,612	8,950
12	21	1,571	37	53	18	1,679	1,401	55	78	10	1,544	3,223
1	23	7,088	292	350	145	7,875	6,416	238	312	67	7,033	14,908
2	22	6,787	302	327	168	7,584	6,475	292	316	134	7,217	14,801
3	26	1,612	60	114	52	1,838	2,819	136	373	108	3,436	5,274
合計	300	77,695	2,443	5,819	2,036	87,993	76,642	2,677	6,254	1,777	87,350	175,343

施設利用状況

月	開館 日数 (日)	視 察 ・ 施 設 見 学						会議室等
		市 内		市 外		計		
		件 数	人 数	件 数	人 数	件 数	人 数	件 数
4	25	6	163	3	109	9	272	0
5	27	6	94	3	42	9	136	1
6	26	10	308	7	95	17	403	6
7	26	16	721	6	216	22	937	3
8	27	4	160	9	133	13	293	1
9	24	4	103	5	92	9	195	3
10	27	12	365	6	98	18	463	1
11	26	12	323	15	240	27	563	3
12	21	5	123	2	40	7	163	5
1	23	4	137	3	88	7	225	2
2	22	1	8	4	84	5	92	4
3	26	2	110	4	55	6	165	5
合計	300	82	2,615	67	1,292	149	3,907	34

平成3年度 団体観覧利用学校数

		学校数	児童生徒数	教員数
小学校	市内	6	728	51
	市外	2	198	8
中学校	市内	5	1,343	57
	市外	1	23	2
高等学校		8	202	14
養護学校		6	145	80
合計		28校	2,639人	212人

市民アートギャラリー利用状況

月	展覧会 開催日数 (日)	利 用 団体数 (件)	入場者数 (人)	展 覧 会 名
4	24	1	13,540	市民美術展
5	6	2	7,563	パステル絵画展, 和田造形絵画教室展
6	5	1	1,037	平塚書道協会展
7	10	4	2,525	筆友書道連盟公募展, 圓心流画道小麦会展 湘南フォトファミリー展, 岩崎慎一個展
8	18	3	4,190	大門書悠会展, ひまわりの会展, グループ青い 鳥美術展
9	23	4	5,329	現展神奈川, 平塚再発見平塚写真連盟, パッチ ワークキルト展, 第10回湘南写真家協会展
10	25	7	7,381	河野ファミリー4人展, 中学校絵画展, 児童画展 FIRST EXHIBITION'91, '91全神奈川写真 サロン展, 芸大・美大受験生展, 遊熙会陶芸サ ロン展
11	25	5	7,646	親と子による写生会展, ひびきの会展 湘南工芸家協会展, 平塚市幼小図工作品展 S & A油彩展
12	11	2	1,387	抽展, ハロー相模原絵画展
1	21	5	3,687	和田泰映個展, 湘南書道同好会展, ささえ展 第7回ろうきん子供書初め展 SHONAN ART CLUB 15+15+5年目の 4人集
2	14	2	3,923	なかよし作品展, 第12回圓心流画道発表会
3	17	5	2,944	神奈川県行政ポスター展, バンの花ルナ・フロ ー展, 蓑陶会作品展, 秀泉タイルアート展 '92造形絵画作品展
合計	199	41	61,152	

組織・運営

美術館協議会

委員名簿

会 長	水越 謙	元教育委員、前平塚ロータリークラブ会長
副会長	今村信夫	元市立金田小学校長
	村重 寧	東京国立博物館美術課長（美術史家）
	安田建一	中央公論美術出版社長（美術評論家）
	平野 博	元美術館基本構想策定委員 無形文化財育成担当参与
	水島英耀	市文化財保護委員、市文化連盟会長、元市議会議長
	武井徳一	社会教育委員、市美術協会会長
	芝山恵美子	国際ソロブチミスト平塚会会長

協議会の開催

平成3年8月8日（於美術館研修室）

1. 委嘱状の交付
2. 正副会長の選出
3. 美術館の施設及び事業の概要について

平成3年10月19日（於美術館研修室）

1. 平成3年度上期事業報告について
2. 平成3年度下期事業計画について
3. その他

平成4年2月18日～19日

- 先進市美術館の視察
- ・名古屋市美術館
 - ・徳川美術館

組 織 (平成 3 年度)



職員名簿 (平成 3 年度)

館 長	原 田 實
美術館・博物館 担 当 参 事	今 泉 義 廣
参 事 兼 副 館 長	大 城 宣
館 長 補 佐 兼 管 理 係 長	亀 谷 幸 藏
管 理 係	添 田 勝 子
	高 橋 秀 夫
	野 川 栄 一
	戸 塚 清
学 芸 係 長	村 山 昇
学 芸 係	森 田 英 之
	柿 沼 茂 雄
	小 松 崎 拓 男
	石 渡 尚
	鈴 木 幹
	端 山 聡 子
	小 池 光 理
美術館嘱託員	平 野 博
	佐 藤 涉
	近 藤 正 子
	犬 飼 み ず ほ
	山 崎 隆 雄

平成 3 年度

平塚市美術館年報

発行 平塚市美術館

〒 254 平塚市西八幡 1 - 3 - 3

Tel 0463 (35) 2111

印刷 旬興版印刷所

平塚市新町 7 - 15

Tel 0463 (32) 1899

平成 5 年 3 月 31 日発行